



日本共産党平塚市議会議員団

電話 0463-23-1111 (内線 2375)

平塚市浅間町9-1 平塚市議会控室

No.1779 2026年7月19日発行

日本共産党平塚市議会議員団

団長 松本 敏子

電話・fax 59-4607

mail@matsumoto-toshiko.jp

幹事長 高山 和義

電話・fax 31-4638

k.takayama@mb.scn-net.ne.jp

日本共産党議員団の法律相談

今回は8月20日(木)です

午後1時～4時 (要予約)

● 議員団にご連絡ください。

6月議会

中央公民館の今後

質問

松本敏子議員

平塚市中央公民館について (質問に入る前に)

中央公民館は10月から休館となります。今年2月に公表された「ホール機能のあり方庁内検討委員会・検討結果報告書」では、「多様な課題解決につながる取り組み・用途として活用できる、複合的な施設かつ機能的な400人程度のホール機能が必要と考える」と結論づけました。

今年度中に、中央公民館と勤労会館の解体工事の設計委託等が予定されており、その後には、解体工事へと進んでゆくことになっています。「中央公民館の今後」の問題は、市民の大きな関心事であり、早く方向性が示されることを願うばかりです。

現在の中央公民館のある場所は平塚市の教育、福祉、文化が集中する重要な場所であることから、新たな中央公民館をその跡地に建設するのでは…?という思いで質問を考えていました。

ところが議会質問の初日、清風クラブ片倉議員の質問「『平塚市と平塚信用金庫との持続可能なまちづくりの推進に関する包括連携協定』の締結」の中で、中央公民館など公共施設誘致の話が出たとき、市長は「駅に近い中心街に持ってゆくことは時代の要請ととらえている」と答弁。

再質問では、それを念頭に入れての内容に切り替えましたが、まだまだ明らかにはなりませんでした。

松本

今後、複合的かつ多機能型の施設として、中央公民館が復活するという認識で良いか。

社会教育部長

昨年度のホール機能のあり方検討の結果と、休館中の代替施設の利用状況を踏まえ、幅広く市民の声を把握しながら、令和9年度にかけて、「中央公民館機能のあり方」を検討していく。それらも踏まえた上で、市として施設整備など総合的な検討が必要と考えている。

松本

先日の同僚議員の質問に対して、中央公民館は民間の力を借りて、駅周辺に持っていく、中心市街地活性化の一助にしたいという答弁もあった。この方向でいくことで決定したと考えていいのか伺う。

企画政策部長

まず現時点ではっきりしていることは、平塚信用金庫が紅谷町の梅屋本館跡地を取得したこと、もう一つは、その土地利用にあたって周辺地域の発展につながるということから、一緒に何かできないかと声掛けをしてもらったことである。

土地所有者の意向をしっかり踏まえ、平塚市としてどんなことができるのか、これから検討を行っていくところであり、現時点で何か決まっていることはない。

平塚の顔ともいえる場所であり、賑わい、利便性が高まっていくような公共機能を導いていくことが必要と考えている。先ほど中央公民館を移すと言われたがそういうことも含めて、ホール機能についても、あくまでも選択肢の一つとして捉えている。今後協議、検討の進展にあわせて、議会にも相談をしながら進めていきたいと考えている。

松本

市の考え方として、社会教育施設として中央公民館という位置付けが今後も続くのか、中央公民館は休館なのか、閉館なのか、伺う。

社会教育部長

中央公民館のあり方については、令和9年度にかけて、まずは休館後の代替施設の利用状況などを把握させてもらう。その後、把握した内容に基づき、場所、中央公民館として必要な機能、財政負担など、さまざまな視点を持ち、中央公民館の機能のあり方について方向性を出していきたいと考えている。

松本

文化芸術活動や生涯学習の場が高額な負担でとても使えないということにならないよう、十分配慮した施設をお願いしたい。市の基本的な考えを伺う。

企画政策部長

どのような施設を入れていくかまだ決まっていない。中央公民館の機能、そういったものを入れていくのか、また全く別の公共的な機能を入れていくのか、スタート地点に立ったところなので、しっかりまちづくり全般を考えて検討していきたい。

松本

休館になるまであと3か月しかない。まずは中央公民館を利用していた人が10月以降に他の施設をちゃんと利用できるようにしているのか伺う。

社会教育部長

代替施設としては、福祉会館が改修されており、南部福祉会館もリニューアルオープンしている。ラスカホールも来年の1月からは借りることが決まっているので、ぜひこちらの活用もしてもらいたい。引き続きお困りの人は、中央公民館で受け付けているのでご相談いただきたい。

「第4の被曝」を考える講演のつどい 開かれる 講演：ジャーナリスト 金平茂紀氏 in 中央公民館



満席になった小ホール

7月11日(土)午後1時半から「第4の被曝を考えるつどい」が、中央公民館4階(小ホール)で行われました。

会場いっぱいの参加者を迎え、主催者代表：大藏律子氏、第4の被曝で犠牲になった永野博吉さんの娘：安希巳さんが挨拶され、その後、金平茂紀氏の講演となりました。

金平氏は、「筑紫哲也NEWS23」の編集長や報道特集のキャスターなどを歴任され、ビキニ環礁でのマグロ漁船の被曝問題にも深くかかわってきた人です。

第3の被曝は、1954年3月1日にビキニ環礁でアメリカの水爆実験によって多くのマグロ漁船が被曝し、船員はみな病院に入院し、その時漁獲したマグロは全部破棄されたといわれています。小さな町での出来事、国は隠しておきたくてもあつという間に知れ渡り、それを見た読売新聞の記者が「これは何かある」と調べて、スクープにしたといわれています。その後、「核実験反対」の運動と共に、今でも「3・1ビキニデー」として広く知られ、毎年集会が行われています。



講演する金平茂紀氏



全国の被ばく関係者が一堂に

しかし、第4の被曝はそれから4年後の1958年7月12日、海上保安庁観測船「拓洋」と「さつま」が、アメリカの水爆実験によって被曝したのです。

2年後は「日米安保改定」の年

「第4の被曝」は、2年後の1960年に安保条約改定を迎えるという時期に起こった事件。国民の中に第五福漁丸事件を思い起こさせ、核実験をめぐる日米対立が再び深刻化することを恐れた政府は、白血病で血を吐き苦しむ

「拓洋」の乗組員永野博吉さんに「放射線量は微量」「健康への影響はない」と結論付け、妻澄子さんには「アメリカが絡むことだから、秘密・秘密・秘密・・・」と、誰にも言うなと言いつめたのです。

当時、身ごもっていた澄子さんは、夫の死後間もなく生まれた娘を連れて厚木から平塚の実家に戻り、市内の小中学校の養護教諭として昭和60年まで勤務されていたといわれています。



「NHK スペシャル」で第4の被曝を取り上げたディレクター横里氏

NHK の取材が平塚の澄子さんに

当時この事件は新聞報道はされましたが、政治の圧力の中でその後話題にもならず、多くの国民は知らずに過ぎてきました。しかし、ずっと問題意識を持っていた人が居た。そして、アメリカの機密文書が出たのを機に、NHK のディレクター横里氏らが調べあげ、当時の乗組員の名簿を足がかりに、亡き永野博吉さんの妻澄子さんを訪ねて平塚に来たのでした。

金平氏は、「これを『NHK』が調べ上げ、報道したことはすごい」とディレクターの横里氏を讃えたのが印象的でした。



会代表：大藏律子氏

「第4の被曝を広める会」は、この度、第1の被曝ヒロシマ、第2の被曝ナガサキ、そして第3の被曝、第4の被曝、さらに第5の被曝フクシマという日本における5回の被ばくの関係者に一堂に集まっていたことはとても意味深い企画だったと思います。金平氏は講演で「日本では核と原子力を意図的に分けて使っているが、英語では核兵器から原子力発電まで、すべてに「nuclear」という一つの単語が使われる」といい、平和利用などという言葉に惑わされないよう警鐘を鳴らします。

今回の講演のつどいには平塚市も後援をしていただき、市長からは「メッセージ」が寄せられました。

「第四の被曝」を広める会御中

「～1958年7月12日の被曝から68年～『第四の被曝』を考える講演のつどい」の開催を心よりお祝い申し上げます。日頃から核の脅威と悲惨さを風化させないため、多岐に渡る活動を通じて、平和の尊さを訴える皆さまの取組に深く敬意を表します。

本日の講演会が、核なき未来と平和への思いを次の世代へ引き継ぐために、有意義な機会となりますことを祈念いたします。

令和8年7月11日

平塚市長 落合克宏